

栃木県埋蔵文化財 センターだより

No.
40
2005.9

おまかいどう

特集

弥生時代の衣食住

発掘現場の最新情報!
発掘現場レポート

八稜鏡について
和田遺跡現地説明会

施設紹介
飛山城史跡公園

とちぎ考古学最前線③
～松山遺跡の話～



▲八稜鏡（足利市 和田遺跡）
6ページに関連記事があります。

特集

弥生時代の衣食住

巨石時代から古代(奈良・平安時代)にかけての衣食住に関する歴史をシリーズで紹介します。今回は弥生時代の衣食住について紹介します。

弥生時代は米を作り、食べ始めた時代です。米は朝鮮半島から運ってきた人たちによってもたらされ、水田耕作の技術だけでなく、関連する一連の道具や、儀礼なども伝わりました。弥生文化は彼ら朝鮮半島の文化と在地の縄文文化とが融合して生まれました。

遺跡から出土する遺物だけでは当時の生活を復元することはできません。そこで当時の日本を記した中国の文獻(いわゆる「**漢志**」「**後漢書**」以下**後漢書と略**)や、朝鮮や土曜に描かれた絵も参考にして、弥生人の生活の一部を覗いてみましょう。

弥生時代の「衣」

衣服には布(織物)が使われるようになった。布そのものが残っていることはまれですが、遺物のなかにその存在を裏付けるものがいくつかあります。一つは糸作りの道具である紡錘車です(写真①)。穴に糸を渡し、回転をからめて回転させ、縀ひをかけて糸にします。二つめは土曜の器の瓦甕です。土曜を作る時に布を下敷きとしたため、その跡が残ったのです(写真②)。当時の衣について後漢書は、男は縵布衣、女は質縵衣を着ていたと伝えています。また、男は布(あるいは

樹皮)を頭に巻いていたとも記しています。香木市大塚古墳群内通塚から出た人面土曜の横の部分にはこの時期特有の文様が付けられていますが、布を表現しているのかも知れません(写真③)。

布の材料は麻が多かったようですが、九州の墓からは染められた縵の残片が見つかっています。身分の高い人がまとっていたのでしょう。



① 鹿野町御神塚遺跡の紡錘車
(直径6.6cm)



② 香木市山崎北遺跡
土曜の縵の布跡
(直径11.5cm)



③ 香木市大塚古墳群内通塚の人面土曜
(高さ12.7cm)

弥生時代の「食」

食を最も特産付けるのが米です。米は縄文時代に食べていた動植物に新たに加わった食材の一つですが、生産性が高いこと、栄養価が高いことなどから主食となりました。

栃木県の弥生人も米を食べていたことは、稲の圧痕がついた土器(写真①)によって明らかです。どのくらい食べられていたのかは、具体的に示せませんが、県

内の弥生遺跡を見る限りかなり少なかったのではと想像しています。ムギ、アワなど米以外の雑穀に頼っていたのではないのでしょうか。南河内町山王遺跡では稲の可能性のある溝が見つかっています(写真②)。

飲食に関して倭人伝には、生野菜を食べる、高杯に盛って手づかみで食べる、酒好き、などと記されています。



① 生河内町山王遺跡の稲痕がある土器片



② 稲刈の様子(伝巻川原山土器印)



③ 南河内町山王遺跡の稲の可能性のある溝(平均の長さ約10m)

弥生時代の「住」

この時代の大きなムラは四角を楕円で囲むようになります(築地遺跡)。これは墓の侵入に対する守りのためと考えられています。ムラの多くの人々は縄文時代と同様に穴住居に住んでいました(写真④)。基本的な作りや大きさは変わりません。墓穴のほかには竪立柱型土器がなかったようです。土器のなかではよく使われる四角で、米を煮えた高床の土器だったことが

わかります(図⑤)。

ほかに土物として倭人伝には「ツルギノ高壇、ツルギノ榎ノ」とあります。これらは祭壇や神殿、身分の高い人の住まいなどと想定されており、有力な「クニ」の中心部などに建てていたのでしょう。栃木県では、倉庫や酒造をもつような大きなムラはみつかっていません。



④ 中野宮市山崎土器印の墓穴住居跡(長さ4.3m)



⑤ 高床倉庫(伝巻川原山土器印)

2005年 発掘現場 レポート

当センターが発掘調査している現場から、最新の情報をご紹介します。
発掘現場を見かけたらどうぞ声を掛けてくださいね。

遺跡には
ロマンがいっぱい
つまっています



1 ハッケトンヤ遺跡 (那須町)

ハッケトンヤとは、高城な崖の上という古語で、遺跡名が一般に小字などの地名をつけることを考えるとちょっと寂な感じがします。実際に現場に立つと、那珂川と余佳川の合流点を臨む丘陵状地形に立地しており、平地からの比高は20mほどで、遺跡名の由来が高城できます。

この遺跡は、すでに大正時代の風川発電所の開設工事中陸道の改修工事の際に、縄文時代の遺構が暴露されており、崖下にある舟戸古墳群とともに、昭和35年に町の指定史跡になっています。

今回、国道294号河原バイパス建設に伴い、遺跡の西側にあたる部分の発掘調査が高城されました。調査は8月末にすでに終了しましたが、縄文時代中期から後期にかけての土坑住居14軒、土坑100基以上、土器3基、石器3基と、縄文土器や石器などの多くの遺構が出土しています。

特に、縄文時代中期後半の土坑住居からは、複式炉という福島県などの東北地方南部で発達する特殊な炉が発見されており、後期の住居跡の炉の間には燧石を鋪したものもあります。土坑は木の炭の貯蔵用のものが多く、豆とんどが円筒状の後期前半のものです。箸とし穴は両端を持って並んでおり、時期の分かるような遺物は出土していませんが、重箱跡からは明らかに住居より古く、集落が営まれる前は当地が貯蔵場であったことが分かりました。土器は幼児や死産児を埋納したと考えられるもので、崖下に埋納された土器に土器で埋納したものも出土しています。

また、当地は小字名が舟戸といい、古代の東山道や中近世の街道の那珂川の渡河地点と推定されており、調査区南側には溝状の切り通しが見ていました。調査の進展、遺跡跡は西側の斜面地の部分は砂礫層を削って約2.5mほどですが、東側の平坦面上がると約6mほどに広がる事が明らかとなり、一部硬化層も出ていました。



複式炉



土器



遺跡跡調査風景

2

森後遺跡 (さくら市)

森後遺跡は、旧宮孫川町の中心から東約8.5kmの、さくら市獅子塚境内にあり、江川左岸の平坦な段丘上に立地しています。この付近の遺跡を見ると、南西約4.5kmには長者の平遺跡が、北東約0.8kmには、古代東山道と推定される遺跡帯が発見された新港平遺跡があります。なお、本遺跡境西側のさくら市と兩郡町との行政界には、その古代東山道ルートが推定されています。

発見されている遺構は、奈良時代から平安時代の竪穴住居跡82軒、竪立柱建物跡42棟、竪立住居跡3列、溝跡40条、井戸1本、土坑・小穴200基などです。中でも注目されるのは、竪立住居跡と、その区画内にある竪穴住居跡と竪立柱建物跡です。

これらの遺構群には、置換関係や方向性が異なることから時間的な差が推定されていますが、今後の調査で、遺跡の性格を解明したいと考えています。



竪立柱建物跡

3

西荆部西原遺跡9区 (宇都宮市)

西荆部西原遺跡の北端には幅6.5m、高さ1.8mの塚があり、頂上にはお社が祀られています。周辺には他に塚などがなく、一見して近世の塚1基と見っていました。しかし、隣接する西荆部西原遺跡9区を掘削調査したところ、古墳時代の円墳の周溝と見られる遺構が発見されました。これにより、近世のものと思われたこの塚が、古墳である可能性が高くなり、それと同時に、2基以上の「古墳群」を形成する可能性が高くなりました。これまで東谷中島遺跡群では古墳時代の鎮座とともに、「塚平比」、「中島物塚」、「塚平塚」の3カ所の古墳群が知られていましたが、この「古墳群」は一番近い塚平古墳群から、北に約400m離れており、これらとは別の新発見の古墳群と思われる。



古墳の可能性のある塚



発見された古墳

4

田島持舟遺跡 (足利市)

北陸東自動車道の建設に伴って、昨年度から調査している遺跡です。現在は、田島川が流れる沖積低地の部分を主に調査しています。

このような、川に近い低地のところでは、縄文時代はあまり見つからないものと考えられていましたが、予想に反して、8月までの調査区内から、弥生時代の縄文遺跡が見つかったのです。特に注目されるのは、幅約1m、径15~18mの円形に掘る溝です。溝で囲まれた中には1軒の竪穴住居跡があり、両者は伴うものと考えています。つまり、住居跡を取り囲むの外側に土手を築き、更にその外側に溝を掘らす構造と推定できます。住居の中に水が入らないようにするための工夫かもしれません。

この住居跡からは、器指文を特徴とする構式と呼ばれる土器と、縄文を特徴とする「赤井戸式」と呼ばれる土器がまとまって出土しています。



溝で囲まれた住居跡(南から)

はちりょうきょう 八稜鏡について

—鏡がさきか？市章がさきか！？—

和田遺跡（足利市）

忘れもしない6月2日のこと。その日の調査も終わろうかという矢先に、「変なものが出たんですけど…」と作業員さんの叫ぶ声が。訝訝してみると、あちこち突いた丸い円盤みたいなものが、土の中から顔を覗かせている。竹串でこびりついた土を削がしていくにつれて、複雑な文様が現れてきた。ふと気が付けば太陽も傾き、西日を浴びたその跡は、神々しくさえあった…かもしれない。



この鏡は平安時代後期の国産鏡である雲花鏡(りょうかきょう)の一種で、雲の花弁形をした鏡柄の鏡です。

突った部分の数によって更に名前が分けられ、8つのが八稜鏡(はちりょうきょう)と呼ばれます。余剰ですが、七稜鏡、六稜鏡、五稜鏡、四稜鏡もあります。

そして、青銅(鏡は銅を削す方が鉄鋼)の文様鏡成は、一組の雲花(ずいか)と2羽の鳳凰(ほうおう)が、起(ちめ



《足利市の市章》

大正時代に足利町だった時に、町章として制定されたもの。その後市になって、市章として使われている。日本最古の書物「古事記」に出てくる倭武命(ヤマトタケルのみこと)の御子、足鏡別王(あしかがみわけのみみ)が足利の地を治めたという言い伝えから、古鏡を湖沼にして中央に足を配しているもの。

(2004年版「足利市勢要覧」より抜粋)

う=ひもを通す突起)を中心に対称配置されています。このモチーフから、更に細分されて、雲花双鳳八稜鏡(ずいかそうほうはちりょうきょう)と呼ばれているのです。少しややこしくなっちゃいましたか？

そう言えば、どこかで見たような形です。下をご覧ください。足利市の市章にそっくりです。ちなみに市の広報紙の名前も「あしかがみ」。この地から出土したことは、単なる偶然などではなく、何かの縁があったのかなあと思ったりもしています。不思議ですね。

和田遺跡現地説明会

6月28日に和田遺跡の現地説明会が行われました。当日は小雨がぱらつきながらも、130名の参加がありました。前日までの雨で遺跡には水がたまり、職員が開始ギリギリまで現場を整えました。準備には苦労しましたが、参加者から「説明が大変わかりやすくて良かった。」「今後の調査が楽しみ。」など好評をいただき、うれしかぎりです。またどこかの街で現地説明会が行われましたら、ぜひ参加してください。



施設 紹介

国指定史跡 飛山城跡 飛山城史跡公園

飛山城跡は、宇都宮市の市街地から東へ約7kmほど離れた鬼怒川左岸の段丘上に位置する中世の城跡です。昭和52年3月8日に国の指定を受けました。

この城は、鎌倉時代の後半に宇都宮氏の重臣である芳賀高俊により築城されたと伝えられています。その後、南北朝期と戦国期にこの城を舞台とした戦闘があり、最後は豊臣秀吉の時代に廃城になったと考えられます。

発掘調査の結果、中世の掘立柱建物跡、竪穴建物跡などが確認されたほか、古代ののろしをあげる施設「烽火」に関する遺構が発見されています。

この成果をもとに、堀・土塁の修復、建物の復元（中世掘立柱建物5棟、竪穴建物2棟、古代竪穴建物1棟）、とびやま歴史体験館などが整備されています。体験館には、飛山城の模型や出土遺物が展示されているほか、古代・中世の体験ができるコーナーがあります。

- 【所在地】 栃木県宇都宮市竹下町380-1 TEL 028-667-9400
- 【休 日】 月曜日（祝日の場合は翌日）・祝日の翌日（土・日の場合は除く）
年未年始（12月29日～1月3日）
- 【開園時間】 飛山城史跡公園 9:00～17:00
（11月1日～3月31日は4:30まで）
とびやま歴史体験館 9:00～17:00
- 【入 館 料】 無料

第1回企画展「宇都宮氏一族の城」（9月7日～11月13日）
ぜひ、お出かけください。



●宇都宮市鳥居地より国道123号線 飛山交差点を左折して約2km
●宇都宮駅 西口ターミナルより 東バス 池澤寄停留所（原台側）行き・池澤寄停留所
祖場行き・池澤寄停留所行き 下竹下バス停下車徒歩10分

とちぎ考古学最前線③

松山遺跡の話

佐野インターから国道50号線を足利方面に向かう。右にはショッピングモール、左にはアウトレットモールが目に入る。林立する最先端の商業施設は、新都市佐野を象徴する景観である。ところで、この周辺は優美な山容を誇る三森山とその西麓にあたり、古代でも繁栄した地域であった。この事実、佐野新都市開発に伴う発掘調査の成果が、雄弁に物語ってくれる。その一つが、今回紹介する松山古墳の発掘調査である

発掘はマスコミで大発見と喧伝されるが、日常の仕事は結構地味なもの。それでも予想もできない発見で、心躍るときがある。松山古墳の調査もその一つであった。古墳は三森山の西を南流する三杉川が形成した低地を望む台地縁部に立地する。調査により周溝のみが発見され、墳丘は以前に削平されていた。調査前には、全く古墳の存在は考えていなかった。これこそが、予期せぬ発見。しかも、周溝のみとはいえ、前方後方墳1基と方墳22基が群を

て発見された。国指定史跡の那須小川古墳群と同一の構成である。

やや詳しく古墳を説明する。本墳は前方部を南に向けた小型な部類の前方後方墳。墳丘長は約44m、後方部長約26m、前方部長約18m、墳丘の周りを幅約7m、長方形の周溝がめぐる。くびれ部周辺の周溝を中心に多数の土師器の二重口縁壺が出土している。この壺は古墳祭祀に不可欠な祭具で、列島規模で共通したカタチをしている。この壺の年代から本墳は4世紀中頃と判明。

さらに、周囲には多数の方墳が帯状に築造され、古墳群を形成。浅い谷を挟み古墳群と同時代のムラが発見され、両者の関係が想定される。松山古墳の発見は、三森山西麓に古代国家が成立して間もない4世紀に、21世紀と同様に最先端の文化を享受して繁栄した人々の存在を示してくれる。

（調査部長 橋本 澄朗）

栃木県埋蔵文化財センターは 学校教育・生涯学習をサポートします!!

I. 土器・石器や体験学習用具の貸出

1. [遺物貸出Kit]
縄文時代編・古墳時代編・平安時代編
2. [火起こしセット]
縄織式・薪織式
3. [石器作りセット]
4. [陶器勾玉作りセット]
5. [アングンセット]
6. [体験学習用復元土器]
縄文料理体験用
7. [土器パズル]
復元した土器を割り、立体パズルにしました。
8. [原始・古代復元衣装]
9. [貸出Kit以外の遺物貸出]
上記以外の遺物の貸出についても、ご相談ください。
例)弥生時代の生活を説明できる遺物の貸出
例)〇〇町内出土の遺物の貸出
またご希望があれば、貸出遺物の簡単な解説文をお付けします。



II. 講師の派遣

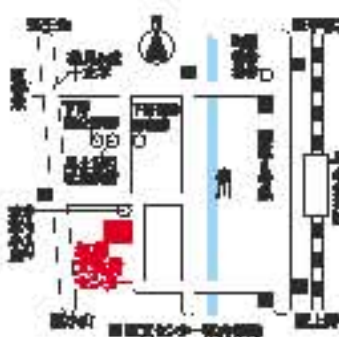
貸出した遺物の解説、原始古代を対象とした出前授業、石器制作の真実など、考古学の専門家を講師として派遣しています。



- ・貸出の希望は、埋蔵文化財センター課及事業担当までご連絡ください。
- ・遺物の貸出には簡単な申請書を書いていただくこととなります。申請書の書式は<http://www.malbun.or.jp/japanese/info/form.html>でご覧になれます。
- ・その他原始古代、考古学に関するご質問やご相談がありましたら、お気軽にご連絡ください。

埋蔵文化財センター
暑い夏が終わろうとしています。昨年の特集で紹介した豊分寺西小学校的の古代米作り。今年もまた実施中です。すでに土器作りは終わり、次には土器焼か・かまど作り・炊飯と忙しくなります。さあ今年も古代米を食べることができるといふか、次回のセンターだよりで紹介したいと思えます。お楽しみに。

発行 栃木県教育委員会
宇都宮市城田1-1-20 TEL.028(623)9425
編集 財団法人とちぎ生涯学習文化財団
埋蔵文化財センター
〒325-0416 栃木県下都賀郡豊分寺町大字豊分乙474
TEL.0285(44)8441(代) FAX.0285(44)8445
E-mail webmaster@malbun.or.jp
URL <http://www.malbun.or.jp/>
印刷 ヤマゼンコミュニケーションズ(株)



〈埋蔵文化財センターへのご案内〉

- JR小倉井駅から
約4km、車で約10分
- 東武王生駅から
約6km、車で約15分
- 東武栃本駅から
約20km、車で約20分